

明治三十年三月三十一日

福井縣知事 荒川 邦 藏

五〇

嗜好飲料取締規則

- 第一條 此規則ニ於テ嗜好飲料ト稱スルハ炭酸水、ラム子、肉桂水、蜜柑水、薄荷水、レモン水等ノ類其他芳香物、紫蘇、梅液ノ如キモノヲ混和シタル總テノ飲料ヲ云フ
- 第二條 販賣用トシテ嗜好飲料ヲ製造セント欲スルモノハ用水汲取場及水质試験成績書並ニ製造方法書ヲ添ハ所轄警察署又ハ分署ヲ經テ當廳ニ願出許可ヲ受クヘシ
但製造法ヲ變更セントスルトキハ亦同シ
- 第三條 製造人ハ毎月ノ製造高並ニ販賣高ヲ詳記シ翌月五日迄ニ所轄警察署又ハ分署ヲ經テ當廳ニ届出ヘシ
- 第四條 容器ニハ製造人ノ住所氏名並ニ製造年月日ヲ記シタルモノヲ以テ封緘ヲ爲スヘシ其封緘ナキモノハ販賣スルコトヲ得ス
- 第五條 他府縣ニ於テ製造スルモノヲ販賣セント欲スルトキハ其ノ種類及製造人ノ住所氏名ヲ記載シ所轄警察署又ハ分署ヲ經テ常廳ニ願出許可ヲ受クヘシ
- 第六條 第五條ニ係ル販賣人ハ買入高並ニ販賣高ヲ第三條ノ手續ニ由リ當廳ニ届出スヘシ
- 第七條 粗製又ハ腐敗ニ傾キタルモノハ販賣スヘカラス
- 第八條 警察官ニ於テ製造場又ハ販賣所ニ就キ臨時検査ヲ爲シ健康ニ害アルト認ムルモノハ其販賣ヲ差止メ直チニ廢棄セシムルコトアルヘシ
但検査ニ供シタルモノニ對シ代價ヲ請求スルコトヲ得ス
- 第九條 製造人及第五條ノ許可ヲ得タルモノニシテ廢業死亡改氏名轉居等身上ノ異動ヲ生シタルトキハ十日以内所轄警察署又ハ分署ヲ經テ當廳ニ届出ヘシ
- 第十條 本則第二條第三條第四條第五條第六條第七條第九條ニ違背シタルモノハ刑法第

四百二十六條第四項ニ依リ二日以上五日以下ノ拘留又ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス

附 則

第十一條 本則施行前許可ヲ受ケタル嗜好飲料製造人ハ本則ニ依リ更ニ出願許可ヲ受クヘシ

○福井縣令第二十九號

明治二十五年三月三十一日 縣令第三十號墓地及埋葬取締規則第九條左ノ通改正シ且全第二十三條ノ次ニ附則ヲ加フ

明治三十年三月三十一日

福井縣知事 荒川 邦 藏

- 第九條 火葬場ハ國縣道(縣費支辨ノ道路トモ)、鐵道、學校、病院、社寺及人家人民輻湊ノ地ヲ距ルコト凡ソ百二十間以上ニシテ恒風ノ上位ヲ避ケ火爐烟筒ヲ備ヘ臭烟ヲ防クヘキ裝置ヲ爲シ且周圍ニ塀垣ヲ設クヘシ
但周圍ニ森林等ノ保障アルトキハ塀垣ニ代フルコトヲ得
- 人家稀疎ノ地ニシテ他ニ適當ノ地ナキトキハ前項距離以內ト雖モ許可スルコトアルヘシ又土地ノ狀況ニ依リ前項以上ノ距離アルモノハ適當簡易ノ裝置ヲ爲スコトヲ得
- 一旦許可シタル場所ト雖モ將來土地ノ變更等ニ依リ第一項ノ制限ニ適合セサル場合ヲ生シタルトキハ其移轉又ハ改造ヲ命スルコトアルヘシ
- 附 則
- 第二十四條 從來ノ火葬場ニシテ本則第九條第一項ノ制限ニ適合セサルモノハ明治二十一年六月三十日迄ニ移轉又ハ改造スヘシ

明治三十年三月

福井縣令

五一

明治三十年三月六日
 足羽郡 吉田郡 福井縣知事 荒川邦藏
 大野郡 丹生郡 坂井郡 今立郡

○福井縣告示第三十號
 大坂府下安治木津尻無三川ニ於テ各船ヨリ徵收スル入津料ニ關シ左ノ通り府令發布ノ旨
 全府ヨリ通知アツタリ

明治三十年三月六日
 大坂府令第二十一號
 安治木津尻無三川ニ於テ各船ヨリ徵收スル入津料徵收規則左ノ通相定メ明治三十年四月一日ヨリ施行ス

但明治二十一年^{十二月}大阪府令第七十二號ハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス
 明治三十年二月二十五日
 大阪府知事 内海 忠勝

第一條 入津料徵收規則
 徵收ス 安治木津尻無三川鮪ノ尾杭以內ニ入津スル船舶ハ左ノ料率ニ依リ入津料金ヲ

日本形船(間敷船ノ部)	一艘ニ付	金貳錢
二間船以下	全	金四錢
三間船	全	金七錢
四間船以上	全	金七錢
全 (石量船ノ部)	五十石以上	金三錢
	十石ニ付	

西洋形船	一噸ニ付	金五錢
百噸未満	全	金七錢
百噸以上	全	金七錢三厘
二百石以上	全	金七錢七厘
三百石以上	全	金八錢五厘
四百石以上	全	金九錢七厘
五百石以上	全	

第二條 前條ノ入津料ハ其川入津料取立所ヘ納付スヘシ
 第三條 左ノ各項ノ一ニ當ル船舶ハ入津料ヲ免除ス
 一 官廳ノ所有ニ係ルモノ

二 明治十五年^{八月}布告第四十三號徵發令ニ據リ徵發中ニ係ルモノ
 三 官ニ於テ使用中ニ係ルモノ
 四 安治木津尻無三川内ニ於テ新造若クハ修繕ノ船舶ニシテ試運轉ノ爲メ其川鮪ノ尾杭以外ニ進航シ直チニ入津スルモノ
 五 航海中水火風災ノ爲メ船体ニ破損ヲ生シ荷物乘客ヲ搭載セサルモノ
 六 船体修繕ノ爲メ安治木津尻無三川内甲川ヨリ乙川ニ廻船スルモノ
 七 左ニ掲クル船舶ニシテ時トシテ安治木津尻無三川鮪ノ尾杭以外ニ出テ入津スルモノ

(イ) 水田ノ耕作用船

明治三十年三月 福井縣告示

(ロ) 川船(二十石船、テントウ船、等ノ如キ)
專ラ川内ニテ運漕ヲ業トスルモノ)

(ハ) 遊船(日本形)

八 傳馬船(ハツテラ船)

九 安治木津尻無三川船ノ尾杭附近ノ碇泊船ヨリ荷物乘客轉載ノ爲メ其川内ヲ廻漕スルモノ(俗ニ廻取ト稱スルモノ)

第四條 第三條第三項ニ該當スルモノハ入津ノ際其所有者若クハ乗込者ヨリ証明トナ
ルヘキ書類ヲ添付ノ上入津料取立所へ届出スヘシ

第三條 第四項ニ該當スルモノハ出津ノ際全條第五項ニ該當スルモノハ入津ノ際全條

第六項ニ該當スルモノハ出入津ノ際其所有者若クハ乗込者ヨリ其旨入津料取立所へ
届出スヘシ

第五條 前條ノ届出ヲ爲サ、モノハ其料金ヲ徴收ス

○福井縣告示第三十一號

明治二十一年二月 縣令第二十八號輸出米検査規則第二條ニ依リ今立丹生南條米穀商組合規
約ヲ認可シ本月六日ヨリ検査ヲ開始ス其規約ノ要領ハ左ノ如シ

明治三十年三月六日

福井縣今立丹生南條米穀商組合規約 福井縣知事 荒川 邦 藏

第一章 總 則

第一條 當組合ハ米商及仲買回漕問屋米穀藏預營業者ニシテ輸出米買買又ハ紹介等ノ關

係者ヲ以テ組織ス

第二條 組合ノ名稱ハ福井縣今立丹生南條米穀商組合ト稱シ其事務所及輸出検査所ヲ設
置ス

第三條 事務所ハ南條郡武生町吾妻區百三十二番地ト定メ検査所ハ事務所内ニ設ケ名稱
ハ福井縣^{今立}南條^{南條}米穀商組合輸出米検査所ト稱ス

但今立郡新横江村東鯖江第二十九號四番地ニ支所ヲ置ク

第四條 當組合ノ地區内ハ今立丹生南條三郡ヲ以テ區域トス

第五條 前條地内ノ第一條ニ掲ケル各營業者ハ總テ當組合ニ同盟スヘシ

第二章 目的及方法

第六條 當組合ハ縣令第二十八號ノ趣旨ニ隨ヒ粗悪米輸出ノ弊害ヲ矯正シ本縣下ノ福利
ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第七條 當組合ニ於テ輸出米検査ノ鑑別ハ左ノ四等トス

但白米若クハ餅米輸出モ此例ニ據ル

一等米ハ米質種類及米粒一齊光澤美麗乾燥充分粒ノ混入セサルモノ

二等米一等ニ亞ク 但支米一合ニ付粒五粒以上混入セサルモノ

三等米ハ二等米ニ亞ク

但シ支米一合ニ付粒十粒以上混入セサルモノ

四等米ハ米粒稍齋シキモノ 但支米一合ニ付粒十五粒以上混入セサルモノ

明治三十年三月 福井縣告示

第八條 輸出米ハ乾燥充分ニシテ異種ノ混同ナク俵造リ調整シタルモノニ非サレハ検査
濟ノ票ヲ附セズ

第九條 輸出米ノ容量及俵造リハ左ノ各項ニ據ル
第一項 一俵ノ容量四斗六升トシテ其量リ方ハ楕圓ニシテ一斗以上ハ大楕其以下ハ
小楕ヲ用フ

但シ白米ハ四斗入トス
第二項 一俵四斗六升以上アルハ其以上ノ米ヲ抜き取り賣渡人ニ戻スモノトス
但四斗六升以上ノ分ハ賣買雙方協議ニヨリ時價ヲ以テ文辨スルモ妨ケナシ

第三項 一俵ニ付四斗六升ヨリ不足スルハ每俵四斗六升ニ至ル迄其不足米ハ必ス
補足スヘシ賣買者雙方協議ト云ヘトモ時價ノ支償ヲ許サス

第四項 需用地ノ望ニ據リ一俵四斗二升トシ輸出スルヲ得
但シ本條第一項第二項第三項ヲ適用シ第十一條ニ掲クル検査請求書ニハ特ニ四斗
二升ト記入スヘシ

第五項 俵造リハ二重ニシテ内外共五ヶ所ヲ結束シ之ニ十文字ノ堅細ヲ施シ兩端ハ
十掛以上トス
但シ細俵總目一貫目以上一貫二百目以下トス

第十條 輸出米ハ一石ノ代價ヲ以テ賣買ヲ稱呼スルモノトス
第十一條 輸出米ノ検査手續ハ左ノ各項ニ依ル

第一項 輸出米ノ検査ヲ請ハント欲スルモノハ左ノ式ニ據リタル書面差出スヘシ
輸出米検査請求書

一何 俵
何町村何某ノ倉庫ニ現在スル分

一何 俵
何處ニ於テ何積ニスル分
右御検査被成下度候也

年月日
何町村 之 誰 印

福井縣今立米穀商組合輸出米検査所御中

第二項 第一項ノ申出ニヨリ其俵數十俵以上ナルハ検査人其場所ニ派出シ検査ス
ル事アルヘシ

第三項 藏元ニ於テ検査ヲナシ之ヲ藏入積置ク中飯米等ニ使用シ減少スルハ藏元
ヨリ事務所ヘ其旨申出ヘシ

第四項 検査済ニシテ藏入ノ分ヲ積出サントスルトキハ事務所ヘ申出ツヘシ事務所
ハ其藏元ヘ派出シ糞ニ施シタル検査済ノ標章捺印有無ヲ立會點檢又ハ容量ヲ検査
スヘシ若シ不足或ハ不都合ノ所爲アルト認ムルトキハ一時其輸出ヲ差止メ其頗末
ヲ取調ヘ之レカ處分ナスモノトス

第五項 陸輸又ハ瀛車積ニシテ直チニ米ヲ輸出セント欲スルモノ俵數三十俵以上ナ
ルトキハ其者ノ需メニ應シ派出検査スル事アルヘシ

第六項 藏出シ川下米等ヲ渡海船ヘ積入リタルトキハ如何ナル事由アルモ輸出米ト
見做ス

但シ藏替ノ爲メ船ニ積入タルトキハ事務所ヘ申出テ直ニ陸揚スヘシ
第七項 輸出米ノ検査ハ每俵ニ付壹合以下ヲ抜き把リ精査ヲ遂ケ左ノ標章ノ黒肉印
及検査人ノ認印ヲ捺スヘシ

明治三十年三月 福井縣告示

但シ振キ振リ米ハ本主ニ返附スルモノトス
第八項 其標章ハ左ノ如シ

壹 壹等米ハ檢一貳等米ハ檢二
貳 參等米ハ檢三四等米ハ檢四
檢査等級外ノ組惡米ハ之ニ不ノ字ノ黒肉印ヲ捺シ輸出米ニ適セサルヲ証スヘシ

第十二條 檢査手数料ハ壹俵ニ付金壹錢ト定メ檢査ヲ申出タル者ヨリ直ニ檢査所ニ收納スヘシ

但シ不印ノ檢査料又ハ各地精米改良及米商組合ノ檢査印アル米俵ニシテ其等級ノ當組合ノ檢査等級ニ合格シ(其一等ノ此一等ニ符號スル類ヲ云フ)又ハ合格以上ニ及フモノハ壹俵ニ付金五厘ヲ減ス

第十三條 凡ソ輸出米ハ其俵數及品但相當等級ニ應シ証印ヲ記シタル當事務所ノ証書ヲ交附スヘシ

第十四條 輸出米ニシテ不正ノ所爲アルト見認メ取調ヲ要スル場合ニ於テハ現米ヲ一時差押ユルヲアルヘシ

但シ組合員ニシテ違約ニ當リ違約金納入方期限ヲ怠ルルハ現米ヲ公賣シ殘金アルハ貨主ニ返戻シ不足ハ追徴ス

第十五條 當組合地區内外ヲ不問輸出米ノ檢査ヲ申出スルモノアルルハ派出檢査ヲナスト雖其俵數四十九俵以下ナルルハ檢査ノ外一里ニ付拾錢ノ旅費ヲ出スヘシ

但シ檢査所ハ運搬接續ノ外ハ一里以內ト雖一里ヲ以テ計算ス

第十六條 當檢査所ハ他ノ輸出米檢査所ト常ニ氣派ヲ通シ檢査上取扱方均一ニスルハ勿論事件ニ依リテハ役員出張協議スル事モアルヘシ

第十七條 前條ノ場合ニ於テ他町村ノ輸出米檢査上若シ不都合アルト認ムルトキハ之ヲ申立ツルヲ得又他町村ヨリ當檢査所へ出張セシムルモ同様タル可シ

第八章 附則
第五十九條 檢査米ニ對シ受渡人ヨリ何等ノ苦情ヲ申出ルモ再檢査等ヲナスヲ禁ス

第六十條 檢査人各自ノ意見ヲ異ニシテ一定ノ等級ヲ附スル能ハサル時ハ檢査長ニ申出裁テ決ヲ乞フモノトス

第六十一條 當事務所ノ休日ハ年始三日年末三日トス
但シ至急要用アルトキハ休日ト雖モ其求ニ應ス可シ

第六十二條 他國產出米ニシテ當國へ輸出入アルトキハ貨主或ハ問屋職元ヨリ檢査所ニ届出立會點檢ヲ請ヒ輸出入スヘシ若シ當國產出米混入シアルカ又ハ不正ノ所爲アリト見認ムルルハ輸出ヲ差止ルモノトス

但シ他國產出米ニハ第十一條第七項第八項ニ定ムル檢査等級黒肉印ヲ捺セス尤モ第十二條ノ檢査手数料モ徴收セス

第六十三條 此規約ヲ更正増補セントスルルハ評議員會ノ決議ヲ經テ縣廳ノ認可ヲ得施行スルモノトス

○福井縣告示第三十二號
農商務省勸業講習所傳習規則左ノ通改正ノ旨通知アリ

明治三十年三月十日
勸業講習所傳習規則

福井縣知事 荒川 邦 藏

第一章 總則

第一條 本所ノ傳習ハ本科別科ニ分テス

第二條 本科ハ勸業ニ關スル學理及實地ヲ傳習ス
別科ハ實地ヲ主トシ傍ヲ學理ヲ傳習ス

第三條 本科生ノ定員ヲ百名トシ別科生ノ定員ヲ六十名トス

明治三十年三月 福井縣告示

第四條 傳習期限ハ本科ヲ二ケ年トシ別科ヲ五ケ月トス
 第五條 傳習生ノ學費ハ自辨トス
 但シ傳習料ヲ徵收セス
 第六條 傳習生ハ總テ所内ニ寄宿スルモノトス
 但シ本所ノ都合ニヨリ通學ヲ命スルコトアルヘシ
 第七條 本科及別科ノ學科課程左ノ如シ
 本科課程
 第二章 通學ヲ命スルコトアルヘシ
 學科課程

講義	第一期	動物學
		植物學
		化學
	第二期	動物學
		植物學
		化學
第三期	動物學	
	植物學	
	化學	
講義	第一期	化學
		物理學
		器械學
	第二期	肥料學
		經濟學
		器械學
第三期	肥料學	
	經濟學	
	器械學	

實地	第一期	桑樹栽培
		顯微鏡使用
		顯微鏡使用
	第二期	桑樹栽培
		顯微鏡使用
		顯微鏡使用
第三期	桑樹栽培	
	顯微鏡使用	
	顯微鏡使用	

講義	第一期	動物學大意
		植物學大意
		化學大意
	第二期	桑樹栽培論
		顯微解剖論
		顯微生理論
第三期	顯微生理論	
	顯微解剖論	
	顯微生理論	

明治三十年三月 福井縣告示

實地	製絲法大意	顯微鏡使用	顯體解剖
	蠶種檢查	製種	蠶種檢查
		繭及生絲檢查	

第三章 傳習期及休業

第八條 本科ノ傳習期ヲ分ツコト左ノ如シ

第一期 自十一月一日起至十二月廿四日 上上上

第二期 自一月八日起至四月二十日 上上上

第三期 自四月廿一日至秋蠶實地終了

第九條 別科ノ傳習期ヲ分ツコト左ノ如シ

第一期 自三月廿一日至四月廿一日

第二期 自四月廿一日至七月廿一日

第十條 休業期日左ノ如シ

冬期休業 自十二月廿五日 至翌年一月七日

夏期休業 自秋蠶實地終了後 至九月三十日

日曜日 大祭祝日

但シ養蠶實地中ハ休業スルコトナシ

第四條 募集入學在學及退職

第十一條 本科生ノ募集試験ハ七月中別科生ノ募集試験ハ十一月中地方廳ニ於テ之ヲ執

行ス

第十二條 傳習生志願者ハ左ノ資格ヲ有スルモノタルヘシ

本科志願者

一、品行方正ニシテ傳習期中家事ノ係累ナキ者

二、年齢二十二年以上ノ者

三、三ヶ年以上養蠶ニ従事シタル者

四、尋常中學第三年生相當以上ノ學力ヲ有スル者

別科志願者

一、品行方正ニシテ傳習期中家事ノ係累ナキ者

二、年齢二十五歳以上ノ者

三、三ヶ年以上ノ養蠶ニ従事シタル者

四、高等小學卒業生相當以上ノ學力ヲ有スル者

第十三條 募集試験ノ科目左ノ如シ

本科

一、算術全禮

二、動植物理化學大意

三、養蠶法

別科

養蠶法

第十四條 本科志願者ハ毎年六月三十日別科志願者ハ十月三十一日マテニ左ノ書式ニ準シ願書并ニ履歷書各二通ヲ地方廳ニ差出スヘシ

入學願書
某儀蠶業講習所本科或ハ別科傳習生志願ニ付御試験ノ上入學御許可相成度別紙履歷書相添ヘ此段相願候也

宿所

本籍族戸主ナラサレハ何某男或ハ弟等

何

某印
何年何月生

年月日

蠶業講習所長某殿履

履歷書

一何年何月ヨリ何年何月マテ何學校ニ於テ若クハ何某ニ就キ何學修業

一何年何月何學校ニ於テ第何年ノ課程卒業或ハ全科卒業

一何年何月ヨリ何年何月マテ何所ニ於テ養蠶法ヲ習得シ或ハ何年何月ヨリ何年何月マテ何所ニ於テ養蠶實業ニ從事

第十五條 本科へ入學許可ヲ得タル者ハ左ノ書式ニ準シ在學證書一通ヲ認メ保證人ヨリ本所ニ差出スヘシ

在學證書(證券印紙貼用)

本籍族戸主ナラサレハ何某男或ハ弟等

何 某

何年何月生

今般何某入學御許可相成候ニ付テハ同人在學中ニ係ル一切ノ事件ハ私ニ於テ引受可申此段保證候也

但シ宿所移轉或ハ印章相改候節ハ速ニ届出可申候也

宿所

本籍族

何

某印

何年何月生

年月日

蠶業講習所長何某殿

第十六條 保證人ハ丁年以上ノ男子ニシテ東京府内ニ於テ一家計ヲ立ツル者又ハ本所ニ於テ適當ト認ムルモノタルヘシ

但保證人旅行セントスル時ハ豫メ相當ノ代理者ヲ立テ届出ツヘシ

第十七條 本所ニ於テ保證人又ハ其代理者ヲ不充分ト認ムルトキハ之ヲ換ヘシムルコトアルヘシ

第十八條 保證人死去若クハ他府縣ニ轉住スルハ直ニ他人ヲ以テ之ニ換ヘ更ニ保證證ヲ差出スヘシ

第十九條 怠惰若クハ不品行ニシテ成業ノ見込ナキ者又ハ屢々缺課スル者等ハ退學セシム

第二十條 本科ニ於テハ試験ヲ分テ各年共第一期第二期及第三期試験トシ別科ニ於テハ第一期及第二期試験トス

第二十一條 試験ハ各期ノ終リニ於テ之ヲ行フ

第五章 進級及卒業

第一期及第二期試験トス

試驗ハ各期ノ終リニ於テ之ヲ行フ

但主務官ノ見込ニヨリ臨時試験ヲ行フコトアルヘシ
 第二十二條 試験點數ハ本科別科共各課目一百點ヲ以テ最高點トス
 第二十三條 本科ニ在リテハ各年第三期ノ終リニ於テ別科ニ在リテハ第二期ノ終リニ於テ左ノ規定ニ據リ及落ヲ定メ進級又ハ卒業セシム試験ニ合格セサル者ハ何等ノ事故ニ拘ハラヌ再試験ヲ受クルコトヲ得ス

本科	總平均點數六十點以上	及第
	總平均點數六十點未滿	落第
別科	二課目以上五十點未滿	落第

總平均點數六十點以上
 總平均點數六十點未滿
 二課目以上四十點未滿
 養蠶實地試驗點數六十點未滿
 第二十四條 本科ニ在テハ第一年間ニ於ケル試験ニ及第セル者ヲ進級セシメ第二年間ニ於ケル試験ニ及第セル者ヲ卒業セシム落第セル者ハ原級ニ止ム
 但シ同級ニ於テ二回落第シタルモノハ退學ヲ命ス別科ニ在テハ修業期間ニ於ケル試験ニ及第セル者ヲ卒業セシム
 第二十五條 試験ニ缺席シタル課目ニハ零點ヲ附ス
 但シ病氣其他止ムヲ得サル事故ニ由リ届出ノ上缺席スル者ハ願ニヨリ特ニ試験ヲ行フコトアルヘシ

東京府下北豊島郡瀧ノ河村大字西ヶ原
 農商務省蠶業講習所

○福井縣告示第三十三號

東京府小笠原島伊豆七島及大阪京都神奈川兵庫新潟靜岡宮城石川岩手富山鳥取岡山廣島德島愛媛大分宮崎北海道ノ各府縣道廳ニ於テハ明治二十九年^{十二月} 遞信省令第二十五號船鑑札規則第五條第二項ノ証明モ全樣取扱ハシムル旨通知アリタリ
 明治二十年三月十三日
 福井縣知事 荒川 邦 藏

(福井縣告示第三十三號參照)

明治二十九年^{十二月} 遞信省令第二十五號船鑑札規則抄錄
 第五條第二項 定製場ヲ移轉シ本船管轄官廳ヲ變更スルニ至リタルトキハ三十日以内ニ該管轄官廳ニ船鑑札ヲ返納シ且件名書ヲ添附シテ其證明ヲ申請シ該管轄官廳ニ於テ件名書ノ証明ヲ付與シテヨリ三十日以内ニ之ヲ添附シ新管轄官廳ニ船鑑札ノ下付ヲ申請スヘシ

○福井縣告示第三十四號

本縣々報ハ本月三十一日限り廢刊ス
 明治二十年三月十七日

福井縣知事 荒川 邦 藏

○福井縣告示第三十五號

第四師團ニ在リテハ本年教育ノ爲メ騎兵輜重兵第一補充兵明治二十八年全二十九年徵募ノ者悉皆左ノ通り召集セラル
 明治二十年三月十七日
 福井縣知事 荒川 邦 藏

明治三十年三月 福井縣告示

召集地	召集部隊	召集日數	召集期日
大坂	騎兵第四聯隊	四月一日ヨリ九十日間	四月一日午前九時
	騎兵第十聯隊	全	全
	輜重兵第四大隊	全	全
	全第十大隊第一中隊	全	全

備考 師管ノ區分ニ依リ召集

○福井縣告示第三十六號

一金三百三拾六圓五拾九錢九厘

右ハ客年月十二 福井縣告示第七十八號ノ外同年九月中水害ニ係ル救助諸費及十一月中火災救助費前記ノ通備荒儲蓄法第七條ニ依リ中央儲蓄金ノ補助ヲ受ケタリ

明治三十年三月十七日

福井縣知事 荒川 邦 藏

○福井縣告示第三十七號

左記ノ物件拾得及流失ノ義届出候條拾得ノ物件ニシテ心當リノ者ハ當該町村役場又ハ浦役場へ申出流出ノ物件ニシテ所在發見ノ者ハ最寄浦役場へ届出ツヘシ

明治三十年三月十七日

福井縣知事 荒川 邦 藏

一 傳馬船	自船梁 一間	一 艘
一 小廻船	客年十一月二十二日大飯郡加斗村飯盛海岸ニ漂着セルヲ拾得	一 艘
一 小 船	客年十二月八日坂井郡伊井村桑原地係竹田川架橋ノ所ニ漂着シタルヲ取揚ク	一 艘
一 帆木綿	明治二十九年十二月十三日三方郡西郷村日向海岸ヨリ凡ソ六里餘ノ沖合ニ於テ拾得	凡四五反
一 芋 細		二 筋
一 松木帆桁	明治二十九年十二月十六日三方郡西郷村日向海岸ヲ距ル凡二里ノ沖合ニ於テ拾得	一 本
一 柳橋杭	長四間三尺 末口一尺	一 本
一 古倫僂丁幾	明治二十九年十二月十九日坂井郡雄島村宿海岸ヲ隔ル一里沖合ニ於テ拾得	二 瓶
一 硫酸麻佃涅與謨		五 瓶
一 沃度加留謨		五 瓶
一 次硝酸蒼鉛		六 瓶
一 挖物兒散		五 瓶
一 吐根末		二 瓶
一 沃度鐵舍利別		一 瓶
一 烏犀角		三 目
一 藥品草根木皮一名不詳		八 百十 目

明治三十年三月

福井縣告示

明治三十年一月十二日大阪郡高濱村塩土海岸ヲ距ル四里ノ沖合ニ於テ石油箱ニ入レタル儘漁具ニ掛リ拾得

一唐網 代價凡三圓
明治三十年一月九日三方郡西浦村常神字御神島ヨリ西北凡五里ノ沖合ニ於テ拾得
一和船錨 目形六貫
明治三十年一月二十四日敦賀郡敦賀港金ヶ崎波止場内ニ於テ拾得

一杉板 長二間巾一尺 二寸厚サ四寸
明治三十年二月三日敦賀郡敦賀町小屋ノ川筋ニ於テ拾得

一日本形古錨 目形凡四貫
明治三十年二月二十四日敦賀郡敦賀町入船地先海中ヨリ拾得

一同 目形凡十貫
明治三十年二月二十四日敦賀郡敦賀町入船地先海中ニテ拾得

一茶碗 三十三個内一個破損
明治三十年二月二十五日敦賀郡敦賀町天満地先海中ヨリ拾得

一釜 長二間 船體札釘付ア
明治三十年二月二十六日敦賀郡敦賀町入船地先海中ヨリ拾得

一小船 長二尺 目文字不明
明治三十年二月十七日三方郡山東村菅濱海岸字八セ山尻ニ漂着セシヲ拾得
右拾得ス

一小廻船 白細梁至 船梁三間
一 艘

但定繫場丹後國加佐郡東神崎ニシテ此積荷油木下駄甲、百六十駄ナリ其一駄ハ二十足若クハ三十足ニシテ明治二十九年十二月二十九日敦賀郡松原村立石字脇ノ坂沖合ニ於テ颶風ノ爲メ難破シ船体積荷共流失
右流失ス

○福井縣告示第三十八號
縣下越前國坂井郡吉崎村ヲ北瀨村ト改稱シ同村ノ内大字吉崎ヲ割キ新ニ吉崎村ヲ置ク右町村制第四條及明治二十三年八月法律第七十七號第一條ニ依リ縣參事會ニ於テ議決ノ上内務大臣ノ許可ヲ受ケ本年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
明治三十年三月二十四日 福井縣知事 荒川邦藏

○福井縣告示第三十九號
本年四月一日ヨリ越前國坂井郡北瀨村ノ内大字吉崎ヲ割キ新ニ吉崎村ヲ設置候ニ付同村ノ役場位置ヲ左ノ通り相定ム但北瀨村ノ役場位置ハ故ノ如シ
坂井郡吉崎村役場位置 大字吉崎
明治三十年三月二十四日 福井縣知事 荒川邦藏

○福井縣告示第四十號
本年四月一日ヨリ本縣尋常中學校ヲ福井縣福井尋常中學校ト改稱シ且尋常中學校小濱分校ヲ廢シ更ニ同所ニ尋常中學校ヲ設置シ福井縣小濱尋常中學校ト稱ス
明治三十年三月二十七日 福井縣知事 荒川邦藏

○福井縣告示第四十一號
府縣制第四十三條ノ一ニ依リ縣參事會ニ於テ議決シタル本縣明治二十九年
度備荒儲蓄歲入歲出追加豫算ハ左ノ通

明治三十年三月二十七日 福井縣知事 荒川 邦 藏

明治二十九年年度福井縣備荒儲蓄歲入歲出追加豫算

- 歲入臨時部
- 第二款 中央補助金 金三百三拾六圓五拾九錢九厘
- 第一款 中央補助金 金三百三拾六圓五拾九錢九厘
- 歲入經常部
- 第一款 備荒儲蓄 金三百三拾六圓五拾九錢九厘
- 第一項 救助費 金三百三拾六圓五拾九錢九厘

○福井縣告示第四十二號

明治二十四年^四告示第七十九號郡市長分任條件中へ左ノ一項ヲ追加ス

一 西洋形船舶別種旅客室検査ノ事

明治三十年三月三十一日

福井縣知事 荒川 邦 藏

○福井縣告示第四十三號

神明下普通水利組合ヲ設置シ其區域左ノ通相定メ吉田郡長ヲ之レカ管理者トス

明治三十年三月三十一日

吉田郡淨法寺村ノ内

坂井郡鳴鹿村ノ内

下淨法寺ノ内

鳴鹿山鹿ノ内

福井縣知事 荒川 邦 藏

○福井縣告示第四十四號

臨時縣會ノ議決及ヒ府縣制第四十三條ノ一ニ依リ縣參事會ニ於テ更正議決シタル明治二十九年
度本縣歲入歲出ノ追加豫算更正ハ左ノ通リ

但歲入豫算中國庫補助ノ件ハ特ニ內務大臣ノ許可ヲ得タリ

明治三十年三月三十一日

福井縣知事 荒川 邦 藏

明治二十九年年度福井縣歲入歲出追加更正豫算

歲入

(△印ハ朱書ノ符)

- 第一款 國庫補助金 金三拾貳萬九千圓
- △外金六萬圓
- 第二款 土木費補助金 金三拾貳萬九千圓
- △外金六萬圓
- 第三款 縣
- 第一項 債 金拾五萬九千七百七拾八圓五拾三錢六厘
- 歲入總計金四拾八萬八千七百七拾八圓五拾三錢六厘
- △外金六萬圓
- 歲出
- 經常部
- 第三款 土 木 費 金三拾三萬六千四百九拾圓五拾八錢壹厘
- △外金五萬九千六百九拾九圓六拾六錢八厘
- 第一項 道路橋梁費金四萬貳千三百五拾四圓六拾六錢五厘
- △外金三千四百八拾壹圓七拾壹錢壹厘
- 第二項 治水堤防費 金貳拾九萬貳千三百五拾圓五拾三錢六厘

明治三十年三月

福井縣告示

△外金五萬五千六百四拾六圓六拾五錢九厘
 第三項 港費 金〇
 △外金五百七拾壹圓貳拾九錢八厘
 第四項 測量費 金千七百八拾五圓三拾八錢
 第十七款 縣吏員費 金貳萬千四百六拾六圓四錢三厘
 經常部合計金三拾五萬七千九百五拾六圓六拾貳錢四厘
 △外金五萬九千六百九拾九圓六拾六錢八厘
 第一款 土木費 部
 △外金三百圓三拾三錢貳厘 金三萬八千八百九拾三圓八拾錢壹厘
 第一項 道路橋梁費 金三萬八千八百九拾三圓八拾錢壹厘
 第二款 市町村土木補助費 金九萬九千九百貳拾八圓拾壹錢壹厘
 第一項 道路橋梁費補助 金壹萬七千六百六拾三圓九拾貳錢七厘
 第二項 治水堤防費補助 金七萬四千七百六拾四圓拾八錢四厘
 臨時部合計金拾三萬〇八百貳拾壹圓九拾壹錢貳厘
 △外金三百圓三拾三錢貳厘
 歲出總計金四拾八萬八千七百七拾八圓五拾三錢六厘
 △外金六萬圓

○福井縣告示第四十五號
 臨時縣會ノ議決及ヒ府縣制第四十三條ノ一ニ依リ縣參事會ニ於テ更正議決シタル明治二十九年度水害土木費ニ對シ銀行其他ヨリ借入及ヒ償還方ノ件ハ左ノ通府縣制第九十條ニ

依リ內務大藏兩大臣ノ認可ヲ得タリ
 明治三十年三月三十一日

福井縣知事 荒川 邦 藏

本縣々借借入及償還方法
 第一條 明治二十九年度水害土木費ニ充用スル爲メ金拾五萬九千七百七拾八圓五拾三錢六厘隨時必要ニ應シ其都度銀行其他ヨリ借入ヲ爲ス
 但其借入先キハ縣參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム
 第二條 借入金ノ利子ハ日歩貳厘八毛以內トシ借入ヲ要スル都度縣參事會ノ議決ヲ經テ之ヲ定メ其借入ノ當日分ヨリ計算シ毎年度ニ於テ支拂ヲ爲ス
 第三條 借入金償還ノ期限ハ明治三十一年度ヨリ明治四十一年度ニ至ル十一ケ年度トシ其年割左ノ如シ

金四千七百七拾八圓五拾三錢六厘	三十一年度償還額
金五千圓	三十二年度償還額
金壹萬五千圓	三十三年度償還額
金壹萬五千圓	三十四年度償還額
金壹萬五千圓	三十五年度償還額
金壹萬五千圓	三十六年度償還額
金壹萬五千圓	三十七年度償還額
金貳萬圓	三十八年度償還額
金貳萬圓	三十九年度償還額
金貳萬圓	四十年度償還額
金壹萬五千圓	四十一年度償還額

第四條 毎年度ノ償還元金ハ毎年六月利子ハ同六月十二月ノ兩度ニ於テ支拂フモノトス

明治三十年三月 福井縣告示

○福井縣訓令

○福井縣訓令第二十五號

傳染病豫防事務ノ儀ハ專ラ迅速ヲ期スルハ當然ニ候處近來警察官ノ患家ニ臨ムニ當リ消
毒藥ノ準備ニ乏シキ爲メ其處置ニ躊躇ヲ來スコト尠カラス依テ自今市町村ニ於テ豫シメ
石炭酸及其器具ヲ警察署分署巡查駐在所ニ托シ置キ有事ノ處置迅速ヲ欠カサル様必ス準
備スヘシ

警察官ニ於テハ現品保管ニ注意シ且該品ハ市町村豫防處置ノ外ハ使用スヘカラス
明治三十年三月六日 福井縣知事 荒川邦藏

○福井縣訓令第二十六號

内務部 警察署 郡役所 警察署 監獄支署
警察署 郡役所 警察署 監獄支署

縣立學校
縣立病院

明治二十九年三月三日 福井縣訓令第十七號本縣會計規則第二十一條ヲ左ノ通改正ス
明治三十年三月六日 福井縣知事 荒川 邦 藏
第二十一條 各府ニ於テハ毎月現金受拂ノ殘額ヲ翌月七日限り知事ニ報告スヘシ

(福井縣訓令第二十六號參照)

明治二十九年三月三日 福井縣訓令第十七號會計規則申拔率

第二十一條 各府ニ於テ其仕拂豫算月額ニ殘餘ヲ生シタルトキハ翌月七日限り其金額ヲ知事ニ報告スヘシ

○福井縣訓令第二十七號

明治二十九年三月三日 福井縣訓令第十八號福井縣各府會計細則別冊ノ通更正追加ス
帳簿設備諸計算等ニ關スル條項ハ明治三十年度ヨリ施行ス
別冊ハ別ニ願付ス

內務部
警察部
警務所
警務署
警察署
監獄支署
監獄分署
立學部
立學校

明治三十年三月十日

福井縣知事 荒川 邦 藏

(別冊)

第七條 一項於テノ下(縣稅徵收及)ノ五字トキハノ下(豫算差引簿又ハ)ノ七字ニ項對シ
ノ下(臨時追加徵收又ハ)ノ八字ヲ刪除ス

第九條 建築費ノ下(町村道路橋梁修繕補助費)ノ十一字ヲ插入ス

第十條 各府長ハノ下(前條ノ豫算額ニ)トアルヲ(前條ニ依リ交付ヲ受ケタル金額ニ對
シ)ト改ム

第十一條 依リノ下(豫算差引簿)ノ五字ヲ刪除ス

第十三條中ヘ左ノ二項ヲ追加ス

各府長ニ於テ營業稅附加稅ニ關シ稅務管理局又ハ稅務署ノ通知書ヲ受ケタルトキハ直
ニ該稅額住所氏名及附加稅中課率ノ區分ヲナシ之ヲ町村長ニ通報スヘシ
前項ノ外營業者ノ異動其他徵收上必要ト認ムル通知書ヲ受ケタルトキハ該事故ノ通報
モ亦前項ニ全シ

第二十條 但ノ下(所屬年度ノ訂正ニ係ルモノハ)ノ十三字ヲ插入ス

第二十一條 一項手數料ノ下(貸座敷娼妓賦金)ノ七字ヲ刪除シ三項ノ次ヘ左ノ一項ヲ追
加ス

各府長ニ於テ管庫敷及娼妓賦金ノ納付ヲ受ケタルトキハ第二十九條ノ例ニ依リ收入記
帳ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十五條 一項俸給ノ下(町村交付金)ノ五字ヲ刪除ス

第四十六條 調査シノ下(甲號表ハ之ヲ留置キ乙號表ハ)ノ十三字ヲ插入ス

第四十八條 七日マテニノ下(其年度ノ終ニ於テハ收入完結ヲ遂ケ四月二十五日限り
收入額決算書ト共ニ)ノ三十二字ヲ插入シ但昔ヲ刪除ス

明治三十年三月

福井縣訓令

第五十一條 依リノ下(什拂殘餘金報告書)トアルヲ(現金受拂殘高表)ト改メ調製シノ下
 (第四十六條ノ金庫月計表ヲ添ヘ)ノ十四字ヲ挿入ス
 第五十二條 規定ニ依リノ下(收支)トアルヲ(歳出)ト收ム
 第五十三條 アルトキハノ下(其發見ヲ爲シタル月ノ支出計算書當該科目ニ於テ之ヲ
 訂正スヘシ但年度尾ニ際シ支出計算書提出後ナルトキハ)ノ四十九字ヲ挿入ス
 第五十四條 爲シタルトキノ下(所屬年度ニ係ルモノ)ノ九字ヲ挿入ス
 第五十八條 二項(縣稅豫算差引簿)ヲ删除ス
 書式目錄 第十四條中段(縣稅豫算差引簿)トアルヲ(收入額決算書)ニ下段(第五十八條
 トアルヲ(第四十八條)其次項(全上)トアルヲ(第五十八條)ト改ム
 凡例 八項ヲ删除シ十一項總テノ下(美濃紙)トアルヲ(半紙)ト改ム
 第五號書式 備考第四ヲ删除シ書式什拂切符案内支拂切符中(明治何年度支出科目款)ト
 アルヲ(何年度歳出何年度備前備置配置金又ハ一時取扱金)ト改ム
 第六號書式 何日ノ下(縣廳出納吏又ハ)ノ七字ヲ删除ス
 第七號書式 一金ノ右傍(何年度歳出又ハ何々)ノ九字ヲ追加ス
 第十號書式 及第十一號第十三號第十四號第二十八號書式ヲ更正ス
 第十六號書式 表紙括弧ヲ左ニ改ム
 (此帳簿ハ地租制營業稅雜種稅營業稅附
 加稅戶數割ノ五個ニ分チ調製スヘシ)
 第二十號書式 表紙現金出納簿トアル右傍ニ割書ニテ(自明治何年四月一日至明治何年
 三月三十一日)ノ二十字及書式七段目拂ノ欄餘白前野ノ右傍ニ(黒線)ヲ其次野五段目
 二(何月分計)ノ四字并ニ其次野(累計)ノ二字ヲ追加ス
 第二十一號書式 五段目何月分計トアル次野(累計)ノ二字及同書式二葉目何月分計ノ
 次野五段目(朱書ニテ(何月分計)ノ四字同行七段目ニ尙ホ朱書ニテ(〇八〇〇)其次野

累計ノ區ニ墨書ニテ(五五〇〇)ノ數字ヲ追加ス
 第二十二號書式 表紙括弧依ルヘシノ下(但記帳方ハ第二十一號書式ノ例ニ準ス)ノ十
 七字ヲ追加ス
 (書式略ス)
 ○福井縣訓令第二十八號

那 市 役 所
 警 察 署
 警 察 分 署
 町 村 役 場

陸軍召集事務検査規程左ノ通相定ム
 明治三十年三月十三日 福井縣知事 荒川邦藏

陸軍召集事務検査規程
 第一條 召集事務ハ定期及臨時ニ事務ノ整否ヲ検査ス定期検査ハ毎年四月一日ヨリ同月
 三十日迄ノ間ニ於テ之ヲ行フ
 第二條 郡市役所警察署警察分署ノ検査ハ検査員ヲ任命シ之ヲ行ハシム
 第三條 町村役場ノ定期検査ハ町村長ヲ郡役所ニ召集シ郡長之ヲ行フヘシ
 郡長ハ其日時ヲ定メ豫メ知事ニ報告スヘシ
 第四條 町村役場ノ臨時検査ハ郡長ニ於テ検査員ヲ任命シ知事ニ報告シ其検査員ヲシテ
 之ヲ行ハシムヘシ
 前項ノ外知事ハ臨時検査員ヲ任命シ之ヲ行フコトアルヘシ
 第五條 郡長ニ於テ定期検査ヲ執行シタルトキハ毎年五月五日迄ニ臨時検査ヲ執行シタ
 ルトキハ執行後二十日以内ニ召集事務成績表ヲ作り知事ニ報告スヘシ

第六條 召集事務ノ検査ニ於テ法律命令ニ違ヒ又ハ錯誤アルコトヲ發見シタルトキハ直ニ更正セシムヘシ

○福井縣訓令第二十九號

今般福井縣令第十九號ヲ以テ本縣令達公布式改定候ニ付テハ該公布式第三條第一項後段及同條第二項ニ依リ當廳ニ於テ印刷配付スル令達及其別紙別冊等ノ配付部數左表ノ通り相定發布ノ都度郡市役所ニ送付スヘク候條郡市役所ニ於テハ其役所配當ノ分ヲ控除シタル上直ニ町村役場ニ配付シ又市役所、町村役場ニ於テハ縣令、告示、諭告ハ其部内ニ周知セシムル爲メ速ニ公示ノ手續ヲナシ訓令ハ直ニ關係ノ箇所へ配付ス可シ

明治三十年三月十七日 福井縣知事 荒川 邦 藏

配付箇所	令達			訓令
	種別	縣	令	
郡市役所	三部宛	三部宛	三部宛	三部宛 <small>關係アルモ （水理組合管理者兼用）</small>
町村役場	二部宛	二部宛	二部宛	二部宛 全上 <small>（水理組合管理者及浦役場兼用）</small>
市町村立小學校並同分校	○	○	○	一部宛 全上

○福井縣訓令第三十號

學事ニ關スル本縣々令及市町村立小學校ニ對スル本縣訓令ハ來四月一日以降公布ノ都度當廳ニ於テ特ニ印刷ニ付シ各市町村立小學校並同分校ニ配付スル爲メ郡市役所ニ送付スヘク候條郡市役所ニ於テ配付方便宜取計フ可シ

明治三十年三月十七日 福井縣知事 荒川 邦 藏

○福井縣訓令第三十一號

今般福井縣令第十九號ヲ以テ本縣令達公布式改定候處該公布式第三條第一項後段及同條第二項ノ場合ニ於テハ縣令、告示、諭告ト雖モ直接關係アルモノハ訓令同様特ニ印刷物ヲ配付スヘク候條此旨心得ヘシ

但警察ニ關スル縣令、告示、諭告モ本文同様各巡查駐在所へ配付ノ爲メ警察部ヨリ各警察署分署ニ送付セシメ候條適宜配付方取計フヘシ

明治三十年三月十七日 福井縣知事 荒川 邦 藏

- 警察署分署
- 監獄支署
- 縣立學校
- 縣立病院
- 縣立蠶種検査所
- 縣立測候所
- 縣立金庫
- 官國幣社々務所

○福井縣訓令第三十二號

貸座敷及娼妓賦金徵收取扱手續別冊ノ通り相定メ明治三十年四月一日ヨリ施行ス
但別冊ハ別ニ頒ツ

明治三十年三月十九日

福井縣知事 荒川邦藏

(別冊)

貸座敷及娼妓賦金徵收取扱手續

- 第一條 市町村長ハ豫メ貸座敷娼妓賦金臺帳ヲ調製シ置キ警察署又ハ警察分署ノ通牒ニ依リ貸座敷及娼妓ノ開廢其他式ノ如ク登載シ町村長ハ直ニ之ヲ郡長ニ報告スヘシ
- 第二條 郡長ニ在テハ豫メ貸座敷娼妓賦金臺帳ヲ調製シ置キ町村長ノ報告ニ依リ其時々之ヲ記入スヘシ
- 第三條 市町村長ニ於テ貸座敷及娼妓賦金賦課徵收規則第七條ニ依リ納額告知書ヲ發スルニハ賦金臺帳ニ據リ調製之ト割印スヘシ但納額告知書ハ毎月一日之ヲ發スルモノトス
- 新規開業ニ係ル者ハ警察署又ハ分署ノ通牒ヲ受ケタルトキ直ニ納額ヲ調定シ納額告知書發付ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第四條 市町村長ニ於テ徵收セシ賦金ハ其月十五日迄ニ納付書ヘ該任譯書ヲ添付シ現金ハ縣本支金庫ヘ拂込市ハ縣廳ヘ町村長ハ郡長ヘ納付スヘシ
- 第五條 郡長ニ於テ前條賦金ノ納付ヲ受ケタルトキハ賦金臺帳ニ依リ之ヲ調査シ各廟會計細則第二十一條ニ依リ雜收入簿ヘ登載領收證書交付等ノ手續ヲ爲スヘシ
- 第六條 貸座敷及娼妓賦金賦課徵收規則第五條ニ依リ既納ノ賦金ニ對シ還付ヲ要スルトキハ其金額正當本人ノ住所氏名及該事由ヲ詳記シ町村長ハ郡長ヘ郡市長ハ知事ヘ請求ス

スヘシ

- 第七條 市町村長ニ於テ前條還付金ノ仕拂通知書ヲ受ケタルトキハ賦金臺帳(式)ノ如ク記入シタル后該通知書ヲ郡長ハ町村長ヘ市町村長ハ各本人ヘ交付スヘシ
- 第八條 貸座敷及娼妓賦金賦課徵收規則第九條ニ該當スルモノアルトキハ其住所氏名及該事由ヲ詳記シ市長ハ警察署ヘ町村長ハ警察署又ハ分署ヘ急報シ全時ニ郡長ヘ報告スヘシ爾後完納ノ場合ニ於ケルモ亦同シ
- 第九條 市町村長ニ於テ規則第八條ニ依リ督促令狀ヲ發スルトキハ必ス送達書ヲ添付スヘシ
- 第十條 規則第五條ノ免除日數計算方ハ處分ヲ受ケタル者ハ解除ノ當日迄疾病ニ罹リタル者ハ退院ノ當日迄ヲ積算スルモノトス
(貸座敷娼妓賦金臺帳略ス)

○福井縣訓令第三十三號

知事官房
內務部
警察部
警務所
郡役所
警察分署
監獄支署
立獄支署
縣立學校
縣立病院

明治三十年三月

福井縣訓令

明治三十年度ニ於テハ第三種郵便物ニ限リ約束郵便ノ締約ヲ解キタルニ付全年度ニ在リテハ右郵便物ハ總テ郵便切手貼用ノ上發送スヘシ

明治三十年三月二十七日

福井縣知事 荒川 邦 藏

○福井縣訓令第三十四號

縣	監	警	警	郡	監	警	內
立	獄	察	察	役	獄	察	務
學	支	分	署	署	署	署	部
校	署	署	署	署	署	署	部
庫	校	署	署	署	署	署	部

明治二十九年三月福井縣訓令第十六號福井縣金庫出納事務規程中別冊ノ通追加更正シ本年四月一日ヨリ施行ス

但別冊ハ別ニ頒付ス

明治三十年三月三十一日

福井縣知事 荒川 邦 藏

(別冊)

第十條 第十一條ヲ删除シ第十二條ヲ第十條トシ以下順次繰上ク

第十八條 殘餘金ノ仕拂ノ下(及知事ノ命令ニ依リ出納スル場合)ノ十五字ヲ挿入ス

第三十一條 及月計表ノ下(甲乙二通)ノ四字ヲ挿入シ各廳長ノ下(乙)ヲ(一)ト改メ其

下(提出其乙號月計表ニ)ノ九字ヲ挿入ス

第二號書式 表紙備考(左ノ一項ヲ追加ス)

本金庫ニ於テハ本書式ニ準シ別ニ補助簿ヲ備ヘ各支金庫毎ニ口座ヲ設ケ整理スルヲ要ス

同書式 一頁目上欄某年度縣ノ下(稅)ノ字ヲ删除シ欄外括弧ヲ左ノ通改ム

本科目中(ハ縣稅及雜收入財産收入國庫下渡金等ヲ組ミ入ル、モノトス)徵稅令書若クハ納付証欄外ニ過年度收入ノ朱記シアルモノハ雜收入トシテ本科目ヘ收入スルモノトス

同書式 二頁目摘要二段目中(更訂)ノ二字ヲ删除シ備考ヘ左ノ一項ヲ追加ス

本金庫ニ於テ支金庫ヨリ回送ノ歲入金ヲ受領シタルトキハ其受領シタル日ヲ以テ受入ノ記帳ヲナスヘシ但此場合ニ於テ補助簿中其支金庫回送金ノ口座ヘモ同時ニ記帳シ計算ノ重複セサルヲ要ス即チ第三十一條現在金報告書ニ依リ補助簿ヘ記帳ヲ爲シタル内其受領シタル金額ヲ仕拂本支金庫間ノ整理ヲ爲スヘシ

同書式 三頁目上欄備考ノ前ニ(某年度)ノ三字及備考ヘ左ノ一項ヲ追加ス

本金庫ニ於テ支金庫ヨリ回送ノ小學校教員恩給基金ヲ受領シタルトキハ二頁目歲出ノ備考ニ項ノ例ニ據ルヘシ

同書式 六頁目上欄備考ノ前ニ(某年度)ノ三字ヲ追加ス

同書式 七頁目備考ヲ左ノ通改ム

此口座ニハ支金庫ニ於テ縣歲入金ヲ本金庫ニ回送スルトキニ限リ縣歲入ノ部ヨリ更訂受入ヲ爲シ其領收証書ノ到達シタルトキヲ以テ拂ノ區ニ登記スルモノトス但歲出金ノ回送ニ係ルモノハ金庫相互間ニ於テ此書式ニ據リ別ニ補助簿ヲ設ケ處理スルヲ便宜トス

明治三十年三月 福井縣訓令

